

第3学期始業式式辞（令和8年1月8日）

皆さん、おはようございます。2026年、令和8年が始まりました。

うま年にちなんで、今日は馬の話をします。愛媛県で唯一、馬術部がある高校があって、そこに私は3年間、校長として勤務しました。南予の小さな高校で、30年以上馬を飼い続け、馬は生き物なので、生徒たちは、毎日、お正月も当番で、学校に来て世話をしています。勤務していた頃は中四国大会の壁が厚くて、インタハイに出場できなかったのですが、去年の夏、インタハイ出場、しかも全国3位という知らせをいただいたときには、まず驚きましたし、地道な努力に感慨深くなりました。

当時飼っていた馬が逃げ出したことがあります。その馬の名前はストラディヴァリ、ヴァリさんと呼んでいた馬がいなくなったという知らせが、その日、休日だったので、朝7時前に、私の携帯に入りました。馬はすぐに見つかりましたが、そのときヴァリさんは、近くの小学校の運動場で、のんびり草を食べていたそうです。鍵の締め方が緩かった扉を後ろ足で蹴って、馬小屋を抜け出し、坂を下って小学校へ歩く様子を想像すると、のどかな感じもしますが、車にひかれる可能性や、逆に近隣の方にケガをさせる可能性を考えると、非常に恐ろしいことで、すぐに扉を直して再発防止に努めました。このことは新聞の小さな記事になりました、ヴァリさんはそのあと、目の病気にかかって片目を摘出する大手術を行い、生徒たちを乗せることができまるで回復したのですが、まもなくみんなに見守られながら亡くなりました。

長年馬術部の指導をしている監督は、私よりも年配の女性の方なのですが、よく「馬は乗り物ではなく生き物である。」とおっしゃっていました。「馬も生き物だから、やる気が失せることも体調が悪いこともある。子どもと同じで、手を抜くし、いじけることがある。が、喜びやいたわりに心を開く。非常に感受性が豊かで、扱うには配慮が必要である。能力のある馬を購入しても、無計画にトレーニングすれば、その力は失われる。」これは考えさせられる言葉で、言い換えると「人も馬と同じで、やる気が失せるし手を抜くし、いじける。喜びやいたわりに心を開く。感受性が豊かで配慮が必要だ。能力があっても、無計画なトレーニングでは、その力を失ってしまう。」そういうことになると思います。

よく私は皆さんに「高い目標、広い視野を持ってほしい、その前提にあるのは豊かな人間性だ。」と言っていますが、思いやりの心や激励の言葉で、人は前向きになるし、地道で計画的な努力で能力が花開く。思いやりの心も、地道に努力できることも、豊かな人間性の一つなのだと思います。

今日から新学期。3年生は、これまで積み上げてきた自分の力が発揮できるよう、準備をしてください。1、2年生も、学習や部活動、将来の目標に向けて、計画を立て、時間を大切にして地道に努力をしてください。

全校生徒と先生方、東高全員で頑張っていきましょう。以上で、式辞を終わります。